

あなたに届け、  
わたしの挑戦。

# 40周年記念大会

改善で切り拓く未来

# 全日本 物流改善 事例大会 2026

## 開催のご案内

会期 | 2026年5月12日(火) 10:00~17:15  
2026年5月13日(水) 10:00~17:10

会場 | 東京コンファレンスセンター・品川

■ 40周年記念講演「現場力とカルチャー変革」遠藤 功氏  
(株式会社シナ・コーポレーション 代表取締役/元ローランド・ベルガー-日本法人 会長)

■ 40周年記念交流会  
「あなたに届け、わたしの挑戦。- KAIZEN CHALLENGERS PARTY -」



主催 | 公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 一般社団法人 日本物流資格士会

後援 | 公益社団法人 全日本トラック協会 東京商工会議所 一般社団法人 日本倉庫協会  
公益社団法人 日本インダストリアル・エンジニアリング協会 一般財団法人 日本科学技術連盟 一般社団法人 日本物流団体連合会 (順不同)  
一般社団法人 日本パレット協会 一般社団法人 日本物流システム機器協会 一般社団法人 日本物流団体連合会 (順不同)

## 全国で取り組まれた物流改善事例が発表されます

グローバル化の進展、環境負荷軽減の推進、コンプライアンスの確保、人材・労働環境変化への対応など、企業経営を取り巻く重要な課題に対応していくために、企業競争力の向上と企業価値向上に大きく貢献するロジスティクスを構築し、部門間はもとより企業や業種・業界の枠を超えた連携が強く求められています。

ロジスティクスを効率的かつ効果的に機能させるのは、実質的な運営を司る物流現場です。企業経営にスピード、効率化が強く求められ、さらに多様化、複雑化している経営や市場等の環境変化に柔軟に対応できる物流の「現場力」がこれまで以上に必要とされており、物流現場改善活動の推進は「現場力」を強化する重要な役割を担っております。

このような状況のもと、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会と一般社団法人日本物流資格士会では、物流における「現場力」をさらに高めるべく、優れた物流改善事例を相互に発表し、課題解決の手がかりやノウハウを共有していただくとともに、物流の実務者同士が集う情報交流の場となる「全日本物流改善事例大会2026」を開催いたします。

今大会では多数の応募事例のなかから選考された、過去最多の48の優秀事例が2日間にわたって発表されます。また各セッション終了後には、発表者との名刺交換会を実施し、参加者相互の交流を図るとともに、大会終了後には発表の模様を収録した動画を公開、大会への参加者は無料で期間内何度でも視聴可能です。

物流改善に意欲的な取り組みを行っている企業の発表を通じて、参加各社の物流改善活動がさらに活性化し、エッセンシャルワークとしての物流が持続的・安定的に確保されることを期待しております。

この機会に是非関係各位の積極的なご参加をお待ちしております。

### 全日本物流改善事例大会2026 開催要領

会期	1日目: 2026年5月12日(火) 10:00~17:15	A会場	セッション a・c・e・g
		B会場	セッション b・d・f・h
会場	東京コンファレンスセンター・品川 東京都港区港南1-9-36 アレア品川5F	A会場	セッション i・k・m・o
		B会場	セッション j・l・n・p
プログラム	物流の実務者による改善事例について、物流センター等での現場改善を対象とした「I.物流業務部門」と運営・管理部門での改善を対象とした「II.物流管理部門」の部門別に募集し、応募事例の中から選考された「優秀事例」を本大会にて発表いただきます。なお、優秀事例発表者にはクリスタルを贈呈いたします。		
主催	公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 一般社団法人 日本物流資格士会		

### 全日本物流改善事例大会 実行委員会 委員名簿

2026年2月現在 (順不同・敬称略)

委員長	成蹊大学	名誉教授	渡邊 一衛
副委員長	東京海洋大学	学術研究院 流通情報工学部門 教授	黒川 久幸
委員	伊藤忠食品(株)	ロジスティクス本部 本部長代行	神山 浩二
委員	(株)ANA Cargo	マーケティング業務部 担当部長	中井 尚
委員	SBS東芝ロジスティクス(株)	経営企画部 企画担当 参与	脇田 哲也
委員	SBSロジコム(株)	営業企画部長(日本物流資格士会)	三身 直人
委員	(株)オカムラ	ロジスティクス統括部 物流企画部 部長	磯崎 隆之
委員	サッポログループ物流(株)	経営戦略部 部長付	浦田 浩明
委員	山九(株)	物流事業本部 物流企画部 物流システム担当部長	平田 茂幸
委員	Zen Logistics&Strategic Partners Japan(同)	シニアアドバイザー(業務改革/システム/経営企画)(日本物流資格士会)	寺田 猛史
委員	大成建設(株)	エンジニアリング本部 エンジニアリング第1部 部長	津田 亮一
委員	日本通運(株)	ロジスティクス事業推進部 専任部長	吉村 治之
委員	(公益)日本ロジスティクスシステム協会	JILSアドバイザー	飯田 正幸
委員	福島大学	理工学群 共生システム理工学類 准教授	寛 宗徳
委員	本田技研工業(株)	サプライチェーン購買統括部 部品物流企画部 調達・供給プロセス企画課 主事	新井 伸明
委員	三菱地所(株)	物流施設事業部 リーシング・PMユニット 専任部長(日本物流資格士会)	堀川 亮一
委員	三菱倉庫(株)	ロジスティクス業務部 品質マネジメントチームマネジャー	藤本 里子
委員	三八五流通(株)	執行役員 営業本部 引越事業部 法人担当部長(日本物流資格士会)	黒坂 容平
委員	ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス(株)	ロジスティック本部 物流戦略部	齋藤 雅之

### 物流改善賞

全日本物流改善事例大会 実行委員会では、大会でご発表いただいた優秀事例を審査のうえ「最優秀物流改善賞」および「優秀物流改善賞」を決定し、2026年6月開催の当協会定時総会の席上で表彰式を行います。受賞企業には正賞(表彰状)と副賞(賞金)を授与いたします。また、受賞企業は、当協会のホームページ、機関誌「ロジスティクスシステム」で発表いたします。

※2022年大会より、「物流合理化賞」は「最優秀物流改善賞」に、「物流合理化努力賞」は「優秀物流改善賞」に変更しました。

# 「全日本物流改善事例大会2026はこんな大会です！」

「全日本物流改善事例大会2026」では、ひとつの作業所(現場)で完結する小集団による取り組みを対象とした「I.物流業務部門」と、複数の物流業務および工程を統合した範囲を対象とした「II.物流管理部門」における改善事例を募集、その中から選ばれた優秀事例を部門別に発表いただきます。

## ■ 40周年記念講演「現場力とカルチャー変革」

**遠藤 功氏** (株式会社シナ・コーポレーション 代表取締役/元ローランド・ベルガー日本法人 会長)

早稲田大学商学部卒業。米国ボストンカレッジ経営学修士(MBA)。三菱電機(株)、複数の外資系戦略コンサルティング会社を経て、現職。元早稲田大学ビジネススクール教授。2020年6月末にローランド・ベルガー会長を退任、同年7月より「無所属」の独立コンサルタントとして活動している。多くの企業で社外取締役、経営顧問を務め、次世代リーダー育成の企業研修にも携わっている。主な著書に「新しい現場力」、「現場力を鍛える-増補改訂版」、「カルチャー」を経営のご真ん中に据える」、「見える化」、「現場論」、「生きている会社、死んでいる会社」(いずれも東洋経済新報社)などがある。



## ■ 40周年記念交流会「あなたに届け、わたしの挑戦。- KAIZEN CHALLENGERS PARTY -」

発表者および聴講者による懇親会(立食形式)を、両日実施いたします。

## ■ 過去最多48の改善事例が発表されます

会場を2つに分け、2日間にわたりパラレル形式にて開催いたします。貴社の参考となる事例がきっとあるはずです。

## ■ 発表者との名刺交換会を実施、情報交流が図れます

各セッション終了後には、発表者との名刺交換会を実施、参加者相互の交流が図れます。

## ■ 発表事例は後日、動画配信いたします。大会への参加者は無料で視聴可能です

大会終了後、発表の様様を収録した動画を公開いたします。大会への参加者は無料で、期間内(5月~12月を予定)何度でも視聴可能です。

※ 視聴できるのは参加日の事例となります。 ※ オンラインライブ配信は行いません。

## 発表部門について

	I. 物流業務部門(物流センター等での現場改善)	II. 物流管理部門(運営・管理部門での改善)
対象範囲	ひとつの作業所(現場)で完結する小集団が対象	複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象
対象業務	輸送、入荷、検品、保管、仕分、ピッキング、包装、荷役、積付、出荷、配送	受・発注管理、輸・配送管理、在庫管理、作業管理、包装管理
関係部門	物流センター、生産工場、建築現場、病院、商業・港湾施設等	物流部門等
役割	作業生産性向上、業務コスト削減、物流品質向上、現品管理、精度向上、安全性向上、環境負荷軽減等	コスト削減、精度向上、物流リードタイム短縮、環境対応等

## 各部門における事例

I. 物流業務部門(物流センター等での現場改善)	II. 物流管理部門(運営・管理部門での改善)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 庫内作業の改善例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● ピッキングリストや棚表示、ピッキング作業の改善</li> <li>● 人員配置の改善によるピーク時対応や負荷の標準化</li> <li>● 荷役機械、保管設備、パレット、容器、情報端末等の改善</li> <li>● 出荷頻度や取扱製品に応じた保管、配置方法の改善</li> <li>● 作業環境、作業方法の改善</li> <li>● 包装作業の改善</li> </ul> </li> <li>● 輸配送の改善例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 復路輸送の空荷防止などによる収益の向上</li> <li>● 誤出荷、誤納の減少</li> <li>● トラックの積載率、回転率、運行効率の向上</li> <li>● トラックの滞留・積載時間の短縮</li> </ul> </li> <li>● 輸出・輸入業務の改善例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 港湾、空港など輸出入物流拠点における業務改善</li> <li>● コンテナ輸送における物流の効率化</li> <li>● 通関業務における事務作業の改善</li> </ul> </li> <li>● テクノロジーを活用した改善例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 省人化機器(ロボティクス)・IoT・AIの活用による効率化・改善</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 物流システムの改善例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 物流拠点の統合・再配置による改善</li> <li>● 事前出荷情報の取得と活用による改善</li> <li>● 国内・海外物流拠点間輸配送の改善</li> <li>● 港湾地区における渋滞への対応</li> <li>● IT・IoT活用による効率化、業務改善</li> <li>● 物流に配慮した包装設計</li> <li>● パレット、包装資材の環境対策</li> </ul> </li> <li>● 管理系(取引条件等)の改善例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 納期回答の迅速化</li> <li>● 取引条件の変更による改善</li> <li>● 物流変動に合わせた作業体制の構築</li> <li>● 在庫の適正化</li> <li>● 現場事務へのRPAの活用</li> </ul> </li> </ul>
<p>物流全般</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境対応、環境負荷の低減を目指した活動</li> <li>● 災害対応について(震災・水害等)</li> <li>● 労働力不足への対応</li> <li>● CSの向上(クレームの減少)</li> <li>● 教育訓練によるモラル・モチベーションの向上</li> <li>● 労働環境改善、働き方改革</li> <li>● 作業安全性への取り組み</li> <li>● 企業連携・サプライチェーンへの取り組み</li> <li>● SDGsに向けた取り組み</li> </ul>	

# 全日本物流改善事例大会2026プログラム

会場 東京コンファレンスセンター・品川

(敬称略)

		A会場	B会場
9:30	開場		
10:00 ↓ 10:10	開会 あいさつ	全日本物流改善事例大会40周年を記念して 全日本物流改善事例大会 実行委員会 委員長 成蹊大学 名誉教授	渡邊 一衛
10:15 ↓ 11:00	40周年 記念講演	現場力とカルチャー変革 株式会社シナ・コーポレーション 代表取締役 元ローランド・ベルガー日本法人 会長	遠藤 功
	セッション a	コーディネータ (株) ANA Cargo 中井 尚 ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス(株) 齋藤 雅之	セッション b コーディネータ 山九(株) 平田 茂幸 (公益)日本ロジスティクスシステム協会 飯田 正幸
11:05 ↓ 11:25	発表 1	東伸運輸(株) 中継輸送導入による運行効率化と 乗務員負担軽減の取り組み ~持続可能な物流への挑戦~	発表 13 琉球物流(株) 物流プロセスの最適化に向けた取り組み ~物流ABCプロジェクト~
	運輸部 部長	杉浦 陽甫	第一営業部 低温センター 係長 伊波 匡
		岡山発中部・関東行き輸送を複数便受託していたが、乗務員負担軽減と運行効率化を目的に中継輸送を導入。大型車からセミトレーラへの車両変更、拠点が無い地域での簡易中継所設置、他社との連携を行い、運行便数を削減し、効率的な輸送を実現した。	冷凍食品を扱う物流センターでの業務を対象に、「物流ABC」を活用して収支構造を明らかにしたうえで倉庫内作業にかかるコストについて業務実態とコストの関係を明確化した。そのうえで、現状の収支は見合っているのか、どこかの作業にコストがかかっているのかなどを数値化し、業務の改善と生産性の向上を目的として取り組んだ。
11:25 ↓ 11:45	発表 2	住化ロジスティクス(株) 3K改善による「サステナブル物流」の実現	発表 14 ホクシン(株) 好かれる荷主になろう! ~物流業務初心者が実現した積載率UPと待機時間削減~
	技術部 倉庫部	山内 康生 佐久間 善隆	営業業務部 物流グループ グループリーダー 秋月 奈津子 田端 直子
		当社は、深刻化する労働力不足等の課題解決に向け、荷主と共同で物流DXプロジェクトを立ち上げ、最新テクノロジーの活用による生産性向上、オペレーション高度化、3K作業改善を推進しており、今回、3K作業改善を実現したテーマである「手荷役バンニングの機械化」を紹介する。	積載率90%以上を目標に掲げ、担当毎1車ずつ荷姿を検討することで、86.24%(2016年度)から最大94.5%(2024年度)まで向上。併せて2023年度から待機時間のデータ化を開始、積込倉庫の集約・リフトマン増・受付システム導入により待機時間50分以内を実現しており、さらなる削減努力に尽力する。
11:45 ↓ 12:05	発表 3	ローランド ディー.ジー.(株) Service parts ASSYの梱包改善による 物流コスト削減	発表 15 加藤産業(株) 積み付け条件見直しによるカート・ドリー削減と 配送効率向上の取り組み
	生産本部 SCMオペレーション部 ロジスティクス管理ユニット	大草 圭吾	大阪平林センター 課長 武田 隆
		Service parts ASSYにおいて輸送中のダメージ不具合が多発していたため、原因分析を実施した。その結果、梱包仕様に課題があると判断し、仕様を見直すことで品質を確保するとともに、物流コスト削減を実現した。	物価高の影響で1店舗あたりの物量が減少する一方、カテゴリ別ピッキングにより積載効率が低下し、積み付け什器数の増加が課題となっていた。そこでカートの積付条件やオリコン容積率を段階的に見直し、現場検証を重ねて最適化した結果、積付数は昨年比107%超となり、配送・庫内双方の生産性向上を実現した。
12:10 ↓ 12:15	コーディネータコメント		
12:15 ↓ 13:15	セッション a・b 発表者との名刺交換会/昼食休憩		

セッションごとにA・B会場どちらかを選んで聴講いただけます

(敬称略)

A会場		B会場	
	<p>セッション C</p> <p>コーディネータ</p> <p>SBSロジコム(株) 三身 直人 三菱地所(株) 堀川 亮一</p>	<p>セッション d</p> <p>コーディネータ</p> <p>伊藤忠食品(株) 神山 浩二 三菱倉庫(株) 藤本 里子 Zen Logistics&amp;Strategic Partners Japan(同) 寺田 猛史</p>	
	<p>発表 4</p> <p>(株) ミスミ</p> <p>自社物流への適応を追求した 仕分けシステムの開発</p>	<p>発表 16</p> <p>(株) NTTロジスコサービス</p> <p>自動化によるオペレーション改善で 脱属人化と省人化と整流化に挑む</p>	
13:15 ~ 13:35	<p>Operational Excellenceプラットフォーム・ハブ 執行役員(ロジスティクス経営士) 畑農 恒介 物流技術開発室 チーフディレクター 鈴木 寿紀 物流技術開発室 都築 芳樹</p> <p>当日入荷品と在庫品を出荷当日に荷合せする複雑なオペレーションを、人手によるアナログ作業に依存していたため、生産性や品質の停滞が課題となっていた。センターの使命である【确实短納期の遵守】を遂行すべく、仕分け機の自社開発・導入を進め、不良68%削減・生産性20%向上という成果を創出した取り組みを紹介する。</p>	<p>埼玉物流センター 田端 綾 新藤 翼</p> <p>通信機器レンタル業務において、前工程部分(回収品の登録、機種別仕分け)は、熟練者の知識、経験に頼った作業になっている。また、作業の配置レイアウトにも交差や分断等が発生していた。前工程にも自動化技術(ロジスコエッセンスを加味)を導入し、業務全体の整流化、省人化、属人化の解消を図った。</p>	
	<p>発表 5</p> <p>北海道ロジサービス(株)</p> <p>VRによる『熟練の技』のデジタル伝承 ~自動倉庫Auto-Storeにおける作業品質の抜本的改善~</p>	<p>発表 17</p> <p>ロジスティクスオペレーションサービス(株)</p> <p>業務の断捨離による生産性の向上</p>	
13:35 ~ 13:55	<p>宅配物流部 宅配ドライ オートストア マネージャー 岸本 陽太</p> <p>最新の自動倉庫(Auto-Store)で急増した作業ミスに対し、熟練者の動作をVR教材化する「デジタル技能伝承」を実施。効率優先で省略されていたJANスキャン工程を敢えて復活させる原点回帰により、外国人実習生のミスをゼロ化、未集品点数を98.1%削減した。DXと人間教育の融合事例である。</p>	<p>東日本事業部門 販売物流業務部 大阪営業所 野村 夢香</p> <p>物量報告業務の頻度見直しや梱包方法・ピッキング手法の変更を実施し、業務効率化を推進した。顧客と調整のうえ運用を最適化し、断捨離改善も含め月185.5時間の削減を達成。残業時間は微増したものの、総労働時間は前年対比で2,704時間の削減に繋げる事ができた。</p>	
	<p>発表 6</p> <p>サッポログループ物流(株)</p> <p>現場作業の生産性向上と業務プロセス最適化</p>	<p>発表 18</p> <p>花王(株)</p> <p>AI/OCR技術の活用と運用フロー刷新による パレット管理業務のDX推進 ~「人手管理」からの完全脱却への挑戦~</p>	
13:55 ~ 14:15	<p>関東支社 課長代理 狩野 有紗</p> <p>現場課題を総合分析し、業務プロセス見直しやレイアウトの最適化を含む5つのアプローチを戦略的に組み合わせ、現場と一体で取り組み、生産性と物流品質を向上。成果は他センターにも活用可能で、滞留削減や時間外抑制にも寄与。継続的なデータ活用で改善が続く体制を構築した。</p>	<p>ロジスティクス部門 オペレーション革新部 高原 正彦</p> <p>パレット管理の人手依存を見直し、伝票廃止とAI/OCR導入を組み合わせ、段階的にDXを推進。伝票様式の標準化や環境整備により精度を高め、作業工数を大幅削減。電子化による保全性向上と業務効率化を実現した取り組み。</p>	
14:20 ~ 14:25	コーディネータコメント		
14:25 ~ 14:40	セッションc・d 発表者との名刺交換会		

# 全日本物流改善事例大会2026プログラム

セッションごとにA・B会場どちらかを選んで聴講いただけます

(敬称略)

		A会場		B会場		
	セッション <b>e</b>	コーディネータ (株)オカムラ 三八五流通(株)	磯崎 隆之 黒坂 容平	セッション <b>f</b>	コーディネータ 福島大学 本田技研工業(株)	寛 宗徳 新井 伸明
14:40 ↓ 15:00	発表 7	(株)シーエックスカーゴ 入庫受付の標準化と情報共有による 残業削減と業務標準化の実現		発表 19	山村ロジスティクス(株) 誰でも使えるツール作成で、現場作業の効率化改善支援 ～WMSデータの利活用～	
		業務グループ 主任	平田 昭博	管理本部 総務部 主任	豊福 達也	
		60社以上の納品パターンに対応していた入庫受付を、クローク札と音の 仕組みで標準化し誰でも対応可能にした。情報連携強化で残業228時間 を削減し荷主側の負担も軽減。問い合わせセンターの残業時間も昨年比 83%へ削減、出庫も平均51分早まりESも向上した。		営業所から総務部に寄せられた「ロケーション変更使用する資料作成の 簡略化」と「大量商品入荷前日の事前準備の簡略化」の2件の相談をきつ かけに改善活動を開始。現場の声をもとにWMSデータを利活用した「ロ ケーション変更ツール」と「事前仕分けリスト作成ツール」を開発したこと で、工数削減と属人化解消を実現。		
15:00 ↓ 15:20	発表 8	SBS東芝ロジスティクス(株) 家電繁忙期対応 (拠点分散・他社協業・パレット納品)		発表 20	NX・NPロジスティクス(株) ソートセンター仕分け作業時のIE改善取り組み ～荷役作業効率化と安全性向上をめざして～	
		営業第四部 ホームアプライアンス第一担当 主任	山田 雅	西日本支店 西日本GLC	原田 安加李 佐川 賢二	
		荷主の販売拡大に対応するため、物量閑散に応じて拠点を構築し、海外 生産拠点と連携することで直接コンテナを仕向けた分散陸揚げを実施した。 協業他社との連携による在庫預け入れ、エアコンのパライズ納品によ り積込・荷卸し時間を140分短縮。全体物量の10%を分散し、長距離便 削減と倉庫業務集中の緩和を実現した。		ソートセンターでは、複数荷主の商品を集荷し、各納品先に仕分け・集 約・検品を行っているが、その中でもA社は複数の納品先が混載された 状態で入庫されるため、仕分け作業に多くの工数を要している。また、 作業を行う上で危険な環境であったことから、作業効率化を図るととも に安全な作業環境の構築を目指した。		
15:20 ↓ 15:40	発表 9	TOTO(株) 「運べない」を過去のものに。 ドライバーの笑顔と安定供給を守る 「四方よし」の物流改革		発表 21	江崎グリコ(株) 再生パレットと学乳クレート専用化で、 品質・効率・コストを刷新	
		物流推進部 物流技術グループ グループリーダー	南條 晋也	SCM本部ロジスティクス部 チルド冷凍輸送グループ リーダー	藤崎 太一	
		TOTOは「運べない未来」に挑戦し、物流の常識を変える商慣習の改革を 実現。ドライバーの拘束時間や労働負担、走行距離を大幅軽減しながら 安定供給を実現し、社内では物流部門が最優秀改善賞を受賞。働きがい も高め、お客様・輸送・荷役・自社すべてにメリットをもたらす「四方よし」 の物流改革を実現した。		再生パレット導入によりCO2排出量年間200t削減、購入コスト年間1,000 万円改善。学乳専用クレート導入で検品工数を削減し、年間652万円の 効果。さらに廃棄クレートを再生パレット原料化することにより環境循環 型サイクルを実現。CSR推進の一環として他工場や他社への横展開が容 易な仕組みを構築した。		
15:45 ↓ 15:50	コーディネータコメント					
15:50 ↓ 16:05	セッションe・f 発表者との名刺交換会					

(敬称略)

## A会場

## B会場

		A会場		B会場		
	セッション <b>g</b>	コーディネータ 大成建設(株) 日本通運(株)	津田 亮一 吉村 治之	セッション <b>h</b>	コーディネータ SBS東芝ロジスティクス(株) サッポログループ物流(株)	脇田 哲也 浦田 浩明
16:05 ↓ 16:25	発表 10	日立建機ロジテック(株) IoTデバイス活用による棚卸時間の削減と 副資材保管エリア最適化の実現		発表 22	尼高運輸(株) / (株)PFU 繁忙期に約30人必要だった伝票処理を、 14人で回せる仕組みへ ~人手不足の現場で省人化と品質向上の両立を実現~	
	マイニング物流部 フォワーディンググループ梱包計画係	鈴木 崇		(株)PFU ドキュメントイメージング事業本部 パートナービジネス統括部 ビジネスプロダクト販売推進部 fi/DynaEyeプロモーション課	吉野 知恵	
		間接部門と直接部門の共通課題である「梱包資材の棚卸時間と現場レイアウト改善」をテーマに設定し、負担となっている現状を調査した上で、あるべき数値目標を設定。IoTデバイス(スマートマット)導入とレイアウト改善により、棚卸工数の削減と保管スペースの有効活用といった効果を創出、在庫管理の自動化と最適導線を構築した。		百貨店ギフトの伝票処理を既存の業務フローを大きく変えずにデータ化。作業指示書作成を自動化することで、繁忙期に約30人必要だった体制を14人に削減。人手不足が続く中でも業務を安定して回せる仕組みを整え、現場負担を抑えながら約1,200時間の作業削減を実現。		
16:25 ↓ 16:45	発表 11	キリングroupロジスティクス(株) 社会課題に対応しながら“運びきる”ことを実現! ~物効法への包括的対応~		発表 23	(株)キューソーエルプラン 前々日受注運用による受注から 出荷プロセス改善	
	物流管理部 部長代理	石田 拓人		事業本部 ビジネスサポート部 ビジネスサポート課 課長 生産性管理課 課長(物流現場改善士)	川邊 裕司 小林 亮平	
		物流業務に携わる人材不足への対応が喫緊の課題であり、今後も物流効率化法に対応すべく、発着荷主拠点においてトラックの待機・滞留時間削減の取組みをいち早く行ってきた。また、550km以上は“バウンド輸送”を導入する等、長距離輸送におけるドライバー拘束時間削減を行い、輸配送ネットワークの進化を進めてきた。		これまで前日PM受注・出荷作業を行っており深夜作業が発生していたため、受注タイミングの見直しを検討。得意先様と交渉し前々日受注を実現。前日AMから出荷作業が可能となり、受注から出荷完了までのリードタイムは長くなったが、作業着手から出荷完了までに要する実働時間短縮・深夜作業削減による全体最適を図った。		
16:45 ↓ 17:05	発表 12	本田技研工業(株) ドライバー不足・CO <sub>2</sub> 削減に向けた コンテナラウンドユース拡大		発表 24	日清食品(株) 「現場から本社へ集約」「部門横断」「着荷主主導」の 業務プロセス改革による生産性向上	
	サプライチェーン購買本部 SCM・間接材統括部 製品物流部 朝霞製品物流課	吉川 裕也		Well-being推進部 コミュニケーション戦略室 室長	柴田 和浩	
		ドライバー不足・CO <sub>2</sub> 削減といった社会課題への取組として社内コンテナラウンドユースを実施しており、更なる適用本数拡大を図るため他社協業によるラウンドユースを施策展開。協業に伴いドレージ運行を含めたスキーム構築、ルール設定などを行った上で実運用を実施。結果として走行距離ベース41%の削減を実現した。		各工場からの調達オーダーの権限を本社集約し、部門横断の業務プロセス改革により当社・サプライヤ双方の効率化を実現。具体的には ①物流手配等を集約し、双方で業務工数を削減 ②効率的な配車による積載率向上。パレット単位のユニットロードによる荷役時間短縮 ③サプライヤからの積載率を高める提案による更なる積載率向上を達成した。		
17:10 ↓ 17:15	コーディネータコメント					
17:25 ↓ 18:30	交流会「あなたに届け、わたしの挑戦。- KAIZEN CHALLENGERS PARTY -」/ セッションg・h発表者との名刺交換会					
19:00	閉場					

# 全日本物流改善事例大会2026プログラム

セッションごとにA・B会場どちらかを選んで聴講いただけます

(敬称略)

		A会場	B会場
9:30	開場		
10:00 ↓ 10:10	表彰式	2026年度物流現場改善優良認定 表彰式	
10:15 ↓ 10:45	講演	2026年度物流現場改善優良認定企業による講演	
	セッション <b>i</b>	コーディネータ (株)ANA Cargo <b>中井 尚</b> ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス(株) <b>齋藤 雅之</b>	セッション <b>j</b> コーディネータ 山九(株) <b>平田 茂幸</b> (公益)日本ロジスティクスシステム協会 <b>飯田 正幸</b>
10:50 ↓ 11:10	発表 25	<b>北海道ロジサービス(株)</b> AI回帰分析を用いたKPI要因特定と カート運用最適化	発表 37 <b>MDロジス(株)</b> 24年問題への対応／構内物流動線の整流化
	宅配物流部 宅配ドライSC チーフ <b>金田 侑樹</b>	自動車事業部 三田事業所 運営課 運営管理係 係長 <b>城阪 隼</b>	宅配ドライ部門のKPI改善に向け、生成AIを用いた回帰分析により、作業時間のボトルネックが「カート作成」にあることを特定。IE手法による検証で、商品形状と仕器間口の不一致を解消し、付随作業を削減した。最新のデジタル技術と泥臭い現場改善を融合させ、年間866時間の余剰人時削減を達成した事例。
11:10 ↓ 11:30	発表 26	<b>SBS東芝ロジスティクス(株)</b> 棚搬送ロボット導入に伴う効率化推進	発表 38 <b>アサヒロジ(株)</b> システムが止まっても、物流は止めない ～危機下で成し遂げた倉庫移転と新たな連携モデル～
	那須ロジセンター SBSロジスター(株) <b>秋元 豊</b>	近畿圏支社 業務部 <b>山先 久巳</b>	荷主との共同施策で生産部材の外部集約化を実施。弊社自前倉庫での業務立上げと並行し、今後控えている働き手不足や人件費高騰に備え、作業の効率化・自動化を狙い「棚搬送ロボット」を導入。荷主にも働き掛けながら、依頼情報の整流化や要件設計を行った結果、作業生産性と品質の向上、作業人員の削減を実現した。
11:30 ↓ 11:50	発表 27	<b>キリングroupプロジェクト(株)</b> 自動ピッキングソリューション導入による 持続可能な物流体制の構築	発表 39 <b>ロジスティクスオペレーションサービス(株)</b> ムダを改善して更なる生産性UP↑を目指す!
	本社物流管理部 部長代理 <b>浦田 有永</b> 東日本支社 物流管理部 湘南支店 <b>木村 恵利</b>	首都圏事業部門 成田物流業務部 成田第4営業所 <b>長澤 陽子</b>	AGF×AGV×パレタイザとWCS連携による自動ピッキングを導入し、飲料ケースの重量ピッキングを自動化し、年13,853時間(8.9人)を削減。設備は移設も可能でハイブリッド運用によるBCP対応、誤出荷防止や夜間自動化による持続可能な供給体制を構築することで、サプライチェーンの持続性を確保した。
11:55 ↓ 12:00	コーディネータコメント		
12:00 ↓ 13:00	セッションi・j発表者との名刺交換会／昼食休憩		

(敬称略)

		A会場		B会場	
		<p>セッション <b>k</b></p> <p>コーディネータ</p> <p>SBSロジコム(株) 三菱地所(株)</p> <p>三身 直人 堀川 亮一</p>	<p>セッション <b>l</b></p> <p>コーディネータ</p> <p>伊藤忠食品(株) 三菱倉庫(株) Zen Logistics&amp;Strategic Partners Japan(同)</p> <p>神山 浩二 藤本 里子 寺田 猛史</p>		
13:00 ↓ 13:20	<p>発表 28</p> <p><b>日本赤十字社</b></p> <p>ポトムアップ方式による改善活動 ~小さな改善の積み重ねが大きな成果と自信へ~</p>	<p>発表 40</p> <p><b>ブリヂストン物流(株)</b></p> <p>輸送会社困りごと改善 超大型建設用49インチタイヤ積込補助作業ゼロに向けて ~ドライバー(仲間)の安全を確保せよ! 超大型タイヤを運ぶ新たなソリューション~</p>			
	<p>岡山県赤十字血液センター 事業部 学術情報・供給課 課長</p> <p>内藤 一憲</p> <p>独自システムの全国統一のweb化に合わせ、業務体制の見直しを行い、事務及び配送業務の改善、更には業務の効率化を図った。改善の方法は課員からの意見を基に行い、その成果はお金、時間、業務の負担軽減として現れた。「目に見える成果」、「肌で感じる成果」は更なる改善の取り組み意欲として繋がっている。</p>	<p>工場倉庫第二事業部 下関倉庫</p> <p>高塚 健治</p> <p>超大型建設用49インチタイヤ(重量:1.2t)をトラックに積み込み際にドライバーさんが実施する補助作業(タイヤを吊り上げた状態で誘導)を無くすため、順法(荷台の出幅制限)や走行中の安全確保(タイヤ偏りによる車両横転防止等)を可能とした専用パレットを開発。補助作業をゼロ、安全リスク減及び積載率向上等の効果が得られた。</p>			
13:20 ↓ 13:40	<p>発表 29</p> <p><b>クボタロジスティクス(株)</b></p> <p>倉庫の宝箱化プロジェクト ~メーカー系物流会社に取り組んだモノづくり目線での「ムダ」から「付加価値」への大逆転~</p>	<p>発表 41</p> <p><b>日本ロジテム(株)</b></p> <p>誤出荷ゼロへの道! パート主導の改善で築いた信頼の現場</p>			
	<p>SAISプロジェクト</p> <p>安本 菜月 葛原 元太</p> <p>建設機械ミックス生産対応のエンジン納入時、エンジンタイプ毎で異なるパレットを使用しており、生産ラインでは各種ロスが発生。この改善を目指し、新パレットの開発・導入で完全順序納入を倉庫内作業で実現。製造目線ではムダの代表格の「倉庫」の機能を最大化し生産効率アップ(付加価値創出)のモデルを構築。</p>	<p>吉見営業所 所長代理</p> <p>佐藤 寿有</p> <p>パート社員が主体的に改善提案を行い作業環境を整備した結果、品質が向上し長期に渡り、誤出荷ゼロを達成することができた。この取組は得意先から高く評価され信頼関係の構築にもつながった。さらに誤出荷ゼロが継続したことで出荷精度が向上し一部作業工程の削減や作業方法を実現。これにより作業生産性も大幅に向上した。</p>			
13:40 ↓ 14:00	<p>発表 30</p> <p><b>本田技研工業(株)</b></p> <p>構内物流システム改良によるQD保証の盤石化 ※Q:クオリティ、D:デリバリー</p>	<p>発表 42</p> <p><b>資生堂ジャパン(株)</b></p> <p>出荷トレンド×在庫設計×自動補充による GP3生産性最大化の取り組み</p>			
	<p>四輪生産本部 生産統括部 埼玉製作所 完成車工場 工務課</p> <p>志賀 亮人</p> <p>四輪完成車工場において、既存の構内物流システムでの部品供給業務内で【人による保証】となっている作業が存在し、作業ミスによる生産ラインへの影響やラインサイド在庫の目視確認による作業ロスが発生していた。【人による保証】から【システム保証】へ機能改善することで、供給トラブルゼロと作業ロス削減を実現した。</p>	<p>SJロジスティクス部</p> <p>廣田 公彦</p> <p>資生堂西日本物流センターでは、GP3におけるピッキング・梱包作業の手待ち時間が生産性向上の阻害要因となっていた。そこで、出荷実績データに基づくトレンド分析を行い、在庫配置および自動補充設定を最適化することで、追加投資を行うことなく生産性向上を実現した。</p>			
14:05 ↓ 14:10	コーディネータコメント				
14:10 ↓ 14:25	セッションk・l 発表者との名刺交換会				

# 全日本物流改善事例大会2026プログラム

セッションごとにA・B会場どちらかを選んで聴講いただけます

(敬称略)

		A会場		B会場		
	セッション <b>m</b>	コーディネータ (株)オカムラ 三八五流通(株)	磯崎 隆之 黒坂 容平	セッション <b>n</b>	コーディネータ 福島大学 本田技研工業(株) 寛 宗徳 新井 伸明	
14:25 ~ 14:45	発表 31	コーセル(株) 委託会社における出荷作業の生産性向上		発表 43	北海道ロジサービス(株) / (株)ワタリ システム投資ゼロの教育DX ~汎用翻訳ツールを『技能伝承の鍵』に変えた現場の知恵~	
		生産一部 物流課 グループリーダー	谷崎 悦子	(株)ワタリ 江別農産センター センター長	小坂 有司	
		出荷検品から梱包・振り分けまでの工程を細分化し、ビデオ分析で無駄を洗い出して改善を実施。作業手順を見直し標準化することで、従来6名必要だった工程を5名で対応できる効率的な体制を実現した。		既存資産を「知恵」で再定義した教育DX。汎用翻訳ソフトを駆使し、日本語でも伝わりにくい産地状況や品質等の「日々変わるイレギュラー指示」を即座にデジタル化・多言語共有した。情報の時差とニュアンスの壁を解消し、作業者が自ら正解を確信できる環境を構築。投資ゼロで現場の即戦力化と品質安定を両立させた。		
14:45 ~ 15:05	発表 32	NX・NPロジスティクス(株) IEを活用“3本の矢”で オペレーショナルエクセレンスを目指して ~個の改善から 束の成果を実現、そして改善当たり前集団へ~		発表 44	(株)NTTロジスコサービス 体系的相互応援の実現に向けて ~属人化からの脱却~	
		西日本支店 大阪センター	清水 未歩 吉田 舞衣子	西日本マーケティング ロジティクスセンター	橋口 京佳	
		属人化の作業を改善するため、商品や作業の流れを整流化。1荷主に対し庫内各エリアが連携して異なる3つの視点で改善を展開することで、束の成果として庫内作業における荷主全体の最適化を実現。現場改善を不安視していた作業員も共に取組効果を実感することで改善活動の意義を認識し、自ら改善に取り組む人材群へ成長。		業務単位の管理から各々人員を確保、繁忙期等波動に耐えられる体制でなかった。荷量と生産性をもとにした必要人員数と応援可能作業を見える化、過不足人数を業務間で融通し、コストを削減。属人化しがちな配置手法の標準化に向けてツールを導入し、Try&Errorによる施策の精度向上と他センターへの水平展開に着手。		
15:05 ~ 15:25	発表 33	山村ロジスティクス(株) 作業方法と出荷形態変更による生産性改善 ~お客様と共に課題解決し、お客様と共に成果を得る~		発表 45	名港海運(株) 改善活動を活性化する風土づくり ~全員参加で未来を創造~	
		藤沢営業所 副所長(物流現場改善士)	川畑 政広	物流センター統括部 アシスタントマネージャー	山崎 優理	
		大手食品卸の物流センター内業務を受託する当社は、納品先の中で最も生産性が低く、出荷LT(リードタイム)を度々超過してしまう企業に対し、生産性の高い企業との比較・分析をもとにお客様へ改善提案を実施。リスト集品からHHT集品への変更と、空箱からオリコンへ変更することで生産性改善と出荷LT順守を実現した。				
		全社的な改善活動を2009年から展開してきたが、提案件数や改善の質が低下したり、提出拠点・提案者に偏りがあることが課題となっていた。社員ひとりひとりが自業務に問題意識を持ち主体的に改善提案を行う風土づくりを目指して、報奨制度の活用、目標設定、事例共有や教育など、仕組みの改善に取り組んだ。				
15:30 ~ 15:35	コーディネータコメント					
15:35 ~ 15:50	セッションm・n 発表者との名刺交換会					

(敬称略)

A会場		B会場	
	<b>セッション O</b> コーディネータ 大成建設(株) 日本通運(株) 津田 亮一 吉村 治之	<b>セッション P</b> コーディネータ SBS東芝ロジスティクス(株) サッポログループ物流(株) 脇田 哲也 浦田 浩明	
15:50 ↓ 16:10	<b>発表 34</b> <b>ローランド ディー.ジー.(株)</b> <b>四者間で海上コンテナ積載イメージ共有 ~満載受注の実現~</b> 生産本部 SCMオペレーション部 ロジスティクス管理ユニット グローバル輸送管理グループ グループリーダー <b>鈴木 奈緒美</b> コロナ禍以降の海上運賃高騰を背景に、海外顧客から海上コンテナ充填率向上の要求が高まっていた。従来は文字や2Dでしか伝えられなかった積載状況を、ソフトウェアの軽量運用により、誰でも3Dでリアルタイムに共有可能とし、海上コンテナ充填率向上を実現した。	<b>発表 46</b> <b>日本赤十字社</b> <b>輸送管理が生み出す血液製剤の効率的な製造 ~輸送を制する者は製造を制す~</b> 北海道ブロック血液センター 製剤部 製剤一課 課長 <b>梅田 浩介</b> 時間基準が厳しい血液製剤の製造において、製造部門が血液の輸送を管理することで、製造体制に合わせた血液の搬入を実現し、効率的な製造を可能とした。また、集荷便と幹線便を設定し、献血後の原料血液と、できあがった血液製剤の輸送を組み合わせることで、限られた輸送車で広い北海道全域をカバーすることができた。	
16:10 ↓ 16:30	<b>発表 35</b> <b>SBSネクサード(株)</b> <b>大規模EC通販拠点AIを活用した物量波動予測 マネジメント徹底による作業生産性の安定化</b> OS事業部 板橋支店 課長 <b>横山 翔平</b> 大規模物流センターでは季節・曜日・時間帯で物量が大きく変動し、人員配置が難しく生産性が低下しやすい。AIで物量波動を予測し、工程別・時間帯別に最適な人員配置を行える体制を構築し、生産性の安定化を実現した。	<b>発表 47</b> <b>(株)アイシン・ロジテックサービス</b> <b>共通化と脱着式で築く 全社標準パレットモデル</b> 物流部 荷姿技術グループ グループマネージャー <b>谷口 大輔</b> ATパレットで培った共通化ノウハウをもとに脱着式パレットを開発し、種類削減と保管スペース半減を実現。確立した成功モデルは別サイズ帯の製品群にも横展開され、標準化と効率化を全社レベルで加速。改善が連鎖的に広がる、持続的な物流改革の取り組み。	
16:30 ↓ 16:50	<b>発表 36</b> <b>旭化成(中国)投資有限公司</b> <b>中国におけるエンジニアリングプラスチックの 物流合理化</b> 企画部 購買物流改革担当 <b>中島 誠</b> 当社エンジニアリングプラスチックの中国での販売物流合理化を推進。物流情報が未整備な中、手作業でデータを整理し実態を把握の上、折返し輸送・遠距離顧客小口配送等非効率輸送に着眼し、大口顧客工場直送化や顧客近隣倉庫設置による大ロット化等合理化を推進。コストダウン、CO2削減および納入リードタイム短縮を実現した。	<b>発表 48</b> <b>ブラザーロジテック(株)</b> <b>改善提案の活性化による 品質事故低減の取り組み</b> 物流企画部 物流企画課 主任 <b>山田 あゆみ</b> 品質事故の未然防止を目的とし要因を分析。事故の半数以上が手順書に起因していたことから、手順書のあり方と運用を再構築すると共に、改善提案活動の活性化が事故低減に繋がるとの仮説に基づき、両施策が相互に補完しあう事を目指した。結果、提案活動の活性化と、品質事故件数の低減に成功。両者の相関関係を確認した。	
16:55 ↓ 17:00	<b>コーディネータコメント</b>		
17:00 ↓ 17:10	<b>閉会 あいさつ</b> 全日本物流改善事例大会 実行委員会 副委員 東京海洋大学 学術研究院 流通情報工学部門 教授 <b>黒川 久幸</b>		
17:20 ↓ 18:30	<b>交流会「あなたに届け、わたしの挑戦。- KAIZEN CHALLENGERS PARTY -」/ セッションo・p発表者との名刺交換会</b>		
19:00	<b>閉場</b>		

## 参加要項

### 参加申込規定

#### 参加料

参加料金(消費税込み)		両日参加	1日参加
主催団体/後援団体会員	1名	37,400円	22,000円
会員外	1名	61,600円	33,000円

※上記料金には、テキスト代および懇親会参加料が含まれています。昼食代は含まれておりません。  
※都合によりプログラムが変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

#### 有資格者優待(フォローアッププログラム)

当協会では、有資格者のためのフォローアッププログラムを実施しております。本プログラムは、当協会主催の講座で習得した知識をより深く実践の場で活用できる能力を身につけたいという、有資格者からの強い希望を受けて、当協会認定の資格\*をお持ちの方に、当協会主催のプログラムを、優待料金にてご提供するものです。実践力の強化、最新の情報収集の場として、ぜひご活用ください。

#### ■ フォローアッププログラム参加料(消費税込み)

両日参加：27,500円 1日参加：17,600円

(注)フォローアッププログラムにお申し込み後、参加者が資格をお持ちでない方に変更になった場合は、参加料の差額を請求させていただきます。あらかじめご了承ください。

有資格者優待の該当保有資格をご確認ください。

※ロジスティクス経営士、国際物流管理士、グリーンロジスティクス管理士、物流技術管理士、物流現場改善士

#### 参加定員(会場参加)

各日200名(定員になり次第、締め切らせていただきます)

#### 参加申込方法

- 下記のWebサイトからお申し込みください。
- 「参加証」と「請求書」は参加者の方へ開催日の約1週間前までにお送りいたします。
- お手元に届かない場合には、ご連絡をお願いいたします。

#### 【開催日直前のお申し込みについて】

- 定員に余裕があるときのみ当日受付も行いますので、事前に事務局に確認のうえ直接会場受付へお越しください。
- 開催間近のお申し込みについては、参加証等は当日会場でお渡しいたします。

#### 参加料支払い方法

- WEB請求書で請求いたします。

※請求書が届き次第、指定銀行の口座にお振込みください。

※お支払いは原則として開催前日までお願い申し上げます。(開催後になる場合は、連絡欄に支払予定日を明記してください。)

#### 【お願い】

- 参加予定の方のご都合が悪い場合は、代理の方がご出席ください。なお、代理の方のご出席も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。

#### 【キャンセル規定】

開催7日前～前々日(開催日初日を含まず起算)

参加料(消費税を除く)の30%

開催前日および当日

参加料(原則として消費税を除く)の全額

#### ご注意

テキストは会場でお渡しいたします。テキストのみの販売はいたしておりません。スライド内容を撮影する目的での写真撮影および講演内容の録音はご遠慮ください。また、プログラムは都合により変更となる場合があります。

#### 事務局

#### 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

東京都港区海岸1-15-1 スズエビディウム3階

e-mail : kaizenjirei@logistics.or.jp

#### 個人情報のお取り扱いについて

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>) をご覧ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本大会に関する確認・連絡・参加者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

#### 会場のご案内

#### 東京コンファレンスセンター・品川 5F大ホール

〒108-0075 東京都港区港南1-9-36 アレア品川5F

TEL.03-6717-7000



#### 交通のご案内

- JR品川駅 港南口(東口)より 徒歩2分

※お客様用の駐車場をご用意がございません。ご来場の際は、公共交通機関をご利用くださいませ。

参加申込はJILS Webサイトから!

<https://www1.logistics.or.jp/network/kaizenjirei.html>